



うたのたね  
歌仙



一丁山名焼く歌

初燂

今朝よわを編まきとらうく一丁山名

幽山

初秋の流乃らそやうらまよ

三森

らまよの火あききしや焼の風

帆音

七夕

浮草れうわれあわらや女七夕

才磨

早ふなやうらた渡地の風つらり

其角

い今よ家妹とせん侍女仲

嵐雪

桐

花のつら桐の糸よりしほく物

山川

舞

胡良よとてとる露のつらとれ

来山大坂

新白よ二夜泣く新の別外

秀和

新顔や片庭かりき園まへ

百里

新白を給よ写するに書留

破筆

禪ニそくき舞よとれ恥を新

杜格

新顔や誰よりよとる色

月下

魂糸

きまろ棚をよも洞もあつて

嵐雪

魂ニつり味やよとるのよ外

湖水

魂ニ棚を面白くしよるひ外

百里

とるれ十又りきり物をもとらふ

母りよとるけりよとるを舞に

このうきく物よ上りやいさなり  
魂もろくちや入おつよあす  
施錦冠柳永朝日一も表也  
玉蘭盆やせきもつれく雀賞  
冰花  
調柳  
一睽  
渭橋

月 海 物 送

心願く月よと少き海世  
この月やうきと清みの物か  
名日や秋人の聲のやよごと  
沾徳  
鋤立  
嵐雪

二所よ月らん人のうき  
船をこちかし月乃るる水  
羨笠やよん月よき物也  
峯白  
悟心  
秀風

菊花 九唱

其一 九日

嵐雪

菊もさびつてつらふ九日  
其二  
かくれあやふあ菜乃中一にま  
中堂亭ありてくすれそく  
くききけに

其三 百葉を折けた

千  
葉  
葉  
白葉シラまきの名いかけくもか

其四 名所の葉

白葉の福倉やすかたんヤシ三敷り谷

其五

喜林シの葉シやうシの葉シの葉シ  
けいしんシの葉シの葉シの葉シ

おろのシの葉シの葉シの葉シの葉シ

其六 琴

琴の譜シの葉シの葉シの葉シ

其七 葉

葉カの葉カの葉カの葉カ

其八 書

書キの葉キの葉キの葉キ

其九 益

葉キの葉キの葉キの葉キ

鹿

福キの葉キの葉キの葉キの葉キ 不障

田家

藤よりや衣麻追つる影

桐雨

己巳九月十三夜游园中十三唱

其一

素堂

とや申好の月ハ心あけしは夕暮  
さり乃さりわきれくをさし  
るの空に雲きこねやして  
たう〜ま〜

高き境はつたの月を一夜外

其二 寄菊

多し〜や二枚の月よる影

其三 寄茶

い〜〜〜月影外

其四

能すよぬ〜や月乃十三夜

其五 寄蕎麥

月よ若き者もはらばらけり  
さしあはれりてはるかに  
月九ふあまはれきききき

月九ふあまはれきききき

其六

畠中霜を待風あり試り

筆をきききき

みんよねきききき月と

其七

同隠相求とらきき

むくの木乃とらききき月と

其八 寄薄

穂秋のいやとらききき

其九 寄薙

ちやも月よ這かききき

ちよあきききき

其十

水一月千水千月とらよ吉とに  
 すむくもあきにいづる月を同  
 袖にすに落ちる夜月幾つ

其十一 答

月一いつ御りり結るもれり

其十二 寄芭蕉翁

こまにうらむも彼庵の月を  
 あらぐくこの人ありり乃

ほあつちりり—の月  
 ちりりてしちの袖の月を  
 らあはるる—の月  
 又月のあはるる—の月  
 戸はちりり—の月  
 乃あはるる—の月  
 ちりり—の月  
 ちりり—の月





紅葉 附 薙

小田にわしげわしや下もり 秀和

水底乃みよふんくまうりさか 八木

片枝ハ五方アしく乃もきりか 百花

暖縁乃帰子

不もつれよみよふいかけり二月松 壺水

薙の自らやそよまわらふんか 嵐惠

薄

くつぎく 葉もも似るる所か 乃

葉の香もきくしれんる所か 大坂 伴自

伊路の園は終りしげらふ家

地もよるやよもゆりさるるにや

橋のさうりさるりあれく 葉は所

橋のうにやしらぬくはあふれ

こみよれ地底のまきまあふ

くまもあふれさるけり

角のやりその種釣るた為 真角

わきくくそのまはやく

くはくかんニ見つけられやくわう 芭蕉

出

秋の都よ入くがうや 裸山 琴凡

ノはさわやきり大ようく庚の中 舟竹

くくをりよ何と業よつらてく 山川

戸路ぬ 蜂 水さうく 氷花

継しきとじつらにうらむ 如雪

穂田よあーぬらりれさあを 風子

穂すりき一の圃からいささう

百ととうらふ

百年よ一とちりぬれこら 塔門

日々これあうなまこれ親の里 少年 孫五郎

一うらぶらりてきんてん

親里れらゆゆくうらま



流つてはるし 義の教りし 流荷

らんつて乃己う 砧や鳴あそん 芭蕉

字中 荏ふれ色多し 嵐雪

福妻

古すれ福妻とす 終りれ 立吟

りりりすれ福よ 終りれ 間あか 鋤立

福妻あれ 母よ 芳あふ 孤りれ 伴叔

相撲

丁まじり 鯉場の名よ 氷花

兄弟を 携ふ 花餅

投ら せ 禮し 遠入す 立吟

病後

丁まじり 秋り 尚白

踊 祇園

舞子 文く 踊鳥 千之

福妻よ 踊ふ 月下

葉山子

かして馬をく復れ

調柳

よしとてりよとてりよとてりよ

京水

乃とてやばあふあふあふあふ

呂洞

このりいあ後のたのたのたの

鋤立

秋多

辭はあく淋しや秋の人今時

京千春

まつとてこしろう歩や秋のこれ

嵐雪

秋のこれあ房れほくらん人なり

氷花

いキく揺る人んく秋のあられ小

鋤立

七タス獨あういや秋乃これ

嵐尾

地乃これらんくばりいあはは

月下

乃りて千の菊のうらりてく集のうらり

かきくまきくまきくまきく

地れられ井もれ蛙のかきをん

舟竹

とらひくおき屋福これまきく人丸の

柿の葉山をさるる葉のわらわら  
ほしの、あまりけりやと笑ひ身ごと

榎乃かきよきく山乃木其葉を 嵐雪

蕎麥 讀甲陽軍鑑

あゝとくぐりてその身をぞやうか 京 去來

筒香

夏のはらり雪の朝霧ぬきその 桐

閑 新出のくもの煙ハ今もききけん  
わらしめやう思はる

ふりやもほそとくしの物大ら 上宅

あわのさき人の同そ山の奥 水山

初あしり夕りに群る山路うら 卧葛

山家よ藤子やうけしに

つとよもに糧をさかさん秋の産 湖水

ねさぬいし

甲れみよ鼻たし 根木わら 同

雪あふくく男にまう せらゆ 東雲

らる部

ハシ 浮繩乃々々々や揺る芋状々

百里

あつて俄然めりも自然と

四鄰をかろへ歩や庭々々

百花

そら靴の水よあろくくも世外

勇招

川者たつとくくもあすかーうか

團友

鴨網ハハの足んくゆへへく

湖舟

ううくくくくくくくくくくく

三翁

其後名々々々部

老志々々々々々々々々々々々々

露言

讚大黒

神の留守能女房を字へー

嵐雪

行々々々々々の袋やかき月

山川

海々々々々々十月乃乃磨り

大坂 來山

時雨

修修つとくくくくくくく

立志



草と後より立ちわくうゆく時多  
紫水  
奈とと刻く時多あまるとにゆかきん  
嵐雪

京へたりかわく

町多あり馬もにならうい何くろ  
才磨  
葉ふよの山千宮井とくれり子  
山川

江口めく

か〜〜〜れあくらにかせぬ時多介  
京  
千之

折

鳩の交や都子かけあつる面  
月下  
い〜〜れく我危さ〜〜ら火煙小  
字先  
呻うやぞ〜〜れ是乃冬籠り  
埴門  
埋火や〜〜耳〜〜る嵐  
百里  
小船と〜〜ふ〜〜より〜〜れきり炭俵  
和殿

足之袋

足袋  
草足袋やあ〜〜る〜〜る〜〜る  
嵐尾

木枯

こが〜に吹倒<sup>タ</sup>され〜産<sup>タ</sup>取<sup>ル</sup>外  
一丁に風や世のこころはせ  
こ〜に腹立<sup>キ</sup>鶴乃いり外  
木枯よ外杉<sup>ノ</sup>けせ〜もれ<sup>ル</sup>外  
日あ〜りし〜らよ〜と枯<sup>ル</sup>外  
うた<sup>テ</sup>〜も〜も冬<sup>ノ</sup>れ山<sup>ノ</sup>外

疎木

一有<sup>任</sup>

桐雨

土鮮

湖風

京原水

十月雁

こが〜のこ〜も〜る〜外  
十月乃風り〜く〜外  
言瀧

百里

落葉

瀬川の木よ〜系<sup>ル</sup>外  
楓よ〜系<sup>ル</sup>外  
落葉系<sup>ル</sup>外  
庚辰より〜外  
落葉〜外

三石

東石

北鯉

真角

冷水

落葉あつく色くれあめの煙うれ

宗流

信乃吹かしくたる冬のや戸

氷花

支那馬すくかたのそら

風洗

塚一つ枯残りくさ形もす

和賤

多うとくやうゆぬ梨の冬も立

山川

帰花

物よもやあうがしーろれかた

鬼貫

杉風をくしろれらよふりく風

舟竹

やもりあれ紙よろしーかた

標雲

海草一の梅の印ーかた

秀和

雪

初雪やうやうな雪ふ香れあ

山川

門乃雪白とくくくくく

嵐雪

常しくいさぬ板とたぬの雪

調柳

ちどくくきたふまもれく雪の

梅門

はるもくくくく雪れあ

孤屋

白雲の海乃 霧のも 倉よりけり 月下

はあゝとさきと 雲にまきれくあまはけり 湖水

一風 狩のききもせ 糸一のき 北風

初雪の白きに くらぬ 月病 氷 峡水

初雪し 別ハナよあまこい ざり 止行

霜 踏至 堅冰

初雪とく 屏の角し 多きけり 紅雪

とよとに 雪も亦有まれ 柚子の香 宇門

病中

初雪れ 中も 都りも せ 風の林 竹井

雪散

あゝとさきと 雲にまきれくあまはけり 翠白

霜

霜の白や 蟻のききも くらぬ 風子

日乃 雪や けりく 雪の 壱 霜 達曙

うー 毎の 初雪の 子 壱 虎の

花のわらわら

雪あけよ一花咲くやうに

呂洞

凍

田よりしく蒼然と日をも凍す

沾徳

五葉一門氷の上乃あそぶれり

伴丹住  
青人

河海氷を氷乃わらわら

立吟

玉音平に流るる雪のうらみ

作者  
不知

氷の隈よりくまわや初るる

花蝶

古池乃波きりり雪は厚氷

塙門

濁りも凍り白く氷乃花

一口

くちくと氷のやれ少船これ

塙門

海鼠

雪ふるるよ海鼠うらうら朝渚

露沾

海鼠冷たいこころのうらみ

嵐雪

蛸をねくまらぬ

給んをる花よかりしひかり

同

鯨

河豚ト月ト鯨トよトく似ト物ト也ト

伊丹鬼貫

あまかへし鯛のあはて

あまのさきりやあまのさきり鯨

山川

今文よつとくつ鯨の身

氷花

半醉半醒辭

祐成翁を吟めし

曲水

とくつとくつとくつとくつ

鯨ト乃トひらトくトゆトくト鯨ト乃トひらトくトゆトくト鯨ト乃トひらトくトゆトくト

立吟 菊句

衡

つらつら濁るあまのさきり浦らり

氷花

息イナつげよはきさよふよふれらり

桐雨

ちりちりや丸の吹く村らり

幽亭

水鳥

下

水邊のあゆみはなほこし山田のれ  
まらうやや天香ふそ花の氷鏡  
鴛のあゆみおぼろなる山池外  
まを寄人ふはくし赤くら  
湖風  
山川  
尚白  
秀泉

水月

晴さくおきまよし冬月  
つゆとしく静に捨らま露の月  
樺雲  
露入

鷹附追々

取まくものうき鷹の雨を古か  
跡しそおきわらぬ対馬船  
真賣と遊く紅糸やまきこ腰  
追鳥れ一お迹り入りり  
子英  
其角  
桐雨  
一峰

夜興

ほろろとく夜紅のたれまほ  
葱  
氷花

ひよこや一字れ題の忘道草  
百花

臘八

猿ハ飢牛ハ胡麻喰キ其外

紅雪

あまのりやあまもともたけす

君もるや我のいろくさ其れ楠

嵐雪

煤掃

武之振也や煤をさきかたけと富まふ

東頃

すくもいゝあつこく好くを家例に

調柳

す竹の昔をを戸さあ町家

菊峯

煤くさく河やうみくす家の内

月下

針扣

身を拾よ下張く雨の押す

氷花

御守くこし君子此国を遠さげよ

梅門

節季作

せよろ後やかうつ天まもゆ墓山

とと

夜配

夜くそり田町へををわらま

園



歲暮

年乃多事らりて是は成るべく  
月下  
米虫乃石臼ゆんらりて和むる  
楸下  
志磨ほりてさへふる系くして  
嵐雪

世話

十一月七日神尾山を觀る

徳

とらふはまをくく文是のありて  
芭蕉

龍樹菩薩乃禪陀伽王と對し  
て貪欲を志ありて好まらざるに  
有瘡人近熾煙始雖悅後増苦  
乃文のそ修を

歌

雁癩のゆり何ぞし法はが 其角

逍遙鵬鷲之間出入是非之境

彼是

くれり多きしをさるる下は深きか  
嵐雪

つらつら

待神よかくらぬいかなる若石の賣  
石花

もろくさ

寒き鳥のわん紙小結くし  
舟竹

むいっ

書うかや柄杓の底の十字字  
猪心

たんこ

わろ様程のちろひ子切くん  
琴風

くそつさ

桔蓮のかくさかろーけ徳家  
笠凸

せり

観ふお飯ゲもそめ春のこれ  
幽亭

ろせき

そらのあやかろくすきル下り坂  
菊峯

いとおもすま

硯 墨 字 蠅 乃 喰 も の な け ち 百 里

り ざ かり

り じ り 何 よ り ざ かり の な る べ し 月 下

い げ ぎ

十 月 や 金 匠 へ の 書 人 と あり 尚 白

え ち へ た

寺 へ の 禮 儀 へ の 行 儀 相 雨

ふ い ち せ じ

ふ い く い 山 崎 と あり く 水 鶏 也 當 歌

あ き ぢ

音 かく で 清 格 子 あり ね 四 月 日 山 川

せ ち ら

お 雪 の ふ ぶ あり ち も あり 嶽 の 智 也 青 女

あ ん ぐ

一 律 かく あり あり あり あり 其 角

あ き ぢ

相槌乃笑くつらこまのうら

物名

槻卯木松椽桐推棹梨

月さつきやんちりしゆ姉と好ト宅

賀茂鳥羽糺八瀬水野淀

鴨をぬぐふく菓子瘰癧水のほと立吟

養津岸瀬溝濠帆洲井苔波

四つさし憚る身を干すは角なま琴風

鶉鶴鷹鶉鶉鶉鶉鶉鶉

うらうらんとくはつと麻尾州刈菊峯

教感

頬あまのこころはあまのれ花軍舟竹

潘安仁

盃よ破れをよむる花袖くれ日

檜垣女

水かき北月の中は雪をふりしは日

七福神

寄川辨才天鎗

赤いものに川中物せん花<sub>キ</sub>

琴風

寄恵比壽朝

桜朝笑くくちくよとわつし

寄大黒嵐

亭<sub>テイ</sub>の顔のうに鳥く白福す

寄奇老人鹿

角<sub>カク</sub>あくたかんや<sub>ク</sub>や<sub>ク</sub>存の麻

寄福祿壽杖

物<sub>モノ</sub>らんや<sub>ク</sub>の<sub>ク</sub>通照<sub>ク</sub>う<sub>ク</sub>邦杖<sub>ク</sub>は

寄布袋蝶

い<sub>ク</sub>字<sub>ク</sub>や蝶<sub>ク</sub>は<sub>ク</sub>ふ<sub>ク</sub>身<sub>ク</sub>す<sub>ク</sub>も<sub>ク</sub>蘇<sub>ク</sub>の<sub>ク</sub>油

寄昆沙門鉾

あ<sub>ク</sub>あ<sub>ク</sub>う<sub>ク</sub>い<sub>ク</sub>甲<sub>カフト</sub>の<sub>ク</sub>目<sub>ク</sub>せ<sub>ク</sub>う<sub>ク</sub>舞<sub>ク</sub>の<sub>ク</sub>歌

七小町

下

山本

あゝちかえ女れがわいげんひ外 じ

草紙洗

うゝ草や枯くそめのはがし 日

通

けりいあるんねもげや 君れ笠 日

卒都波女

ちおけつりそはよあこらうーい 日

園寺

せうし 小からをかくせ 結糸舞 日

鶺鴒

りそや肌よと痛る 利あゝの皺 日

清水

幸い菴り 小町うらみ世のあやう 日

かおのつゝさおゝねそかろゝん

ちんちんちんかゝい

下

是の魚や木瓜よ列ササ名寄りハ本播キ起

月乃夜

きし是も月よ月あそく御や日

園

年キの夜乃細工より行キ櫛キの割キ日

雨乃夜

養キよ焼キ香キれキとキゆキちキ探キちキ日

風キの夜

用もあれとゆけ顔の賦キ日

付キ夜

是すよは帯刀も行キ少夜回キ日

音キのそれ

つらゆそのまの是跡キもキとキとキ日

廻キ文

松キのあれキ音キやキもキ消キ朝キのキ高キト宅

かキしキつキ流キ志キろキとキれキつキまキかキ日

手

味酒よ苦<sup>ユカ</sup>くおありねと記

ら柳の葉を採るはゆらき

嵐雪

凡涌ふ氷室<sup>ヒムロ</sup>のわいあそび

鋤立

庭いりてよ猪のひら子

立志

照月の雪れ柳本母の雲

嵐雪

捨<sup>ヒ</sup>い<sup>アラキ</sup>あそびわらうと秋を待てる

鋤立

立志



逢ぬ糸練の袷の袖の心マき

立志

黒くねむることくらくらく色

嵐雪

汝乃目をし風鳥や猿猿の心マき

鋤立

又し雪ラトをちりこころ別路

立志

外ソトよ痛くむぬむをさるる心マき

嵐雪

うほのこころいふ獅子心マき

鋤立

振舞トキの舞の志をぬく心マき

立志

舞タヒ奇進をかくそ秋婦マき

嵐雪

新の志を志と志マき

鋤立

秋の志を志と志マき

立志

かきこころいふ心マき

嵐雪

甲エ乃乃志マき

鋤立

痛察ニ乃乃志マき

立志

おころり志マき

嵐雪

洞ソコか深マき

鋤立

足タラシ利カハ乃乃志マき

立志

長崎のついでに世崎んとの奥

嵐雪

松江の音坊震又物々

鋤立

岡谷とくわんの庭巖定テマの内

立志

あけの夜ありつこときり

嵐雪

春の月こく澄いかなる

鋤立

一海んさくまあふせ

立志

糸束ツクゆる切紙きとも継つ徒ぬ

嵐雪

くさみのきわく眉ねあて

鋤立

うー那なの煙草たばこをいそげ

立志

とわきあつさるる気い九く年ねん以

嵐雪

うここ子こ代だい脈いあれれねる

鋤立

あつとも汗あせたあま笠かさの紙

立志

袖そでして櫛くし橋はし沉しず麝じや香かう

嵐雪

文ぶんむららけららら水みづ月つきの月

鋤立

下

三

举白

笠うら舞きは眼の涙を柳に

文葉の葉は福小をあしりく 嵐雪

くく人蝶翅をこころをうりて 季下

初より干に結ぶ河の一滴 氷花

釣瓶井のくくくくと月の秋 嵐雪

人の刈<sup>カ</sup>以<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>と我<sup>カ</sup>稿<sup>カ</sup> 举白

浦の穂乃ほく糸とアサの鏡で 氷花

格<sup>ムシナ</sup>あ<sup>ムシナ</sup>る<sup>ムシナ</sup>ふ<sup>ムシナ</sup>ん<sup>ムシナ</sup>く<sup>ムシナ</sup>く<sup>ムシナ</sup> 季下

幸<sup>ムシナ</sup>を<sup>ムシナ</sup>う<sup>ムシナ</sup>て<sup>ムシナ</sup>う<sup>ムシナ</sup>ら<sup>ムシナ</sup>く<sup>ムシナ</sup>る<sup>ムシナ</sup>舞<sup>ムシナ</sup>ひ<sup>ムシナ</sup>ゆ<sup>ムシナ</sup>ら<sup>ムシナ</sup> 举白

寄<sup>ムシナ</sup>る<sup>ムシナ</sup>も<sup>ムシナ</sup>高<sup>ムシナ</sup>力<sup>ムシナ</sup>者<sup>ムシナ</sup>城<sup>ムシナ</sup>と<sup>ムシナ</sup>志<sup>ムシナ</sup>取<sup>ムシナ</sup>の<sup>ムシナ</sup> 嵐雪

石<sup>モ、タニ</sup>谷<sup>モ、タニ</sup>の<sup>モ、タニ</sup>雪<sup>モ、タニ</sup>く<sup>モ、タニ</sup>つ<sup>モ、タニ</sup>れ<sup>モ、タニ</sup>ま<sup>モ、タニ</sup>ん<sup>モ、タニ</sup>筑<sup>ツク</sup>ホ<sup>ホ</sup>テ<sup>テ</sup>川<sup>カハ</sup> 季下

芽<sup>メ</sup>と<sup>メ</sup>く<sup>メ</sup>ら<sup>メ</sup>あ<sup>メ</sup>へ<sup>メ</sup>す<sup>メ</sup>大<sup>ダイ</sup>割<sup>カ</sup>の<sup>ノ</sup>材<sup>ノ</sup> 氷花

華<sup>ハ</sup>よ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>半<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>涎<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>せ<sup>ハ</sup> 嵐雪

う<sup>ウ</sup>れ<sup>レ</sup>り<sup>リ</sup>よ<sup>ヨ</sup>め<sup>メ</sup>く<sup>ク</sup>梅<sup>ウメ</sup>く<sup>ク</sup>入<sup>イ</sup>定<sup>テイ</sup> 举白

下

星に積<sup>ル</sup>海を<sup>ル</sup>節子<sup>ル</sup>きよも  
氷花

雪のい合せ人も<sup>ル</sup>知れ縁  
李下

多<sup>ル</sup>層に思ひを<sup>ル</sup>寝て<sup>ル</sup>銀燈  
峯白

二 月と<sup>ル</sup>ささ<sup>ル</sup>ゆら<sup>ル</sup>水戸<sup>ル</sup>此<sup>ル</sup>下<sup>ル</sup>所  
嵐雪

大魚の<sup>ル</sup>鱈<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>踊<sup>ル</sup>に<sup>ル</sup>魚<sup>ル</sup>競<sup>ル</sup>し  
李下

上<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>志<sup>ル</sup>と<sup>ル</sup>ふ<sup>ル</sup>嵐<sup>ル</sup>と<sup>ル</sup>ま<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>も  
氷花

つり<sup>ル</sup>釣<sup>ル</sup>に<sup>ル</sup>女<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>さ<sup>ル</sup>つ<sup>ル</sup>い<sup>ル</sup>合<sup>ル</sup>秤<sup>ル</sup>  
嵐雪

情<sup>ル</sup>よ<sup>ル</sup>と<sup>ル</sup>ふ<sup>ル</sup>あ<sup>ル</sup>ま<sup>ル</sup>ぬ<sup>ル</sup>石<sup>ル</sup>麻<sup>ル</sup>  
峯白

胸を<sup>ル</sup>割<sup>ル</sup>か<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>と<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>も<sup>ル</sup>酒<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>罷<sup>ル</sup>  
氷花

狂<sup>ル</sup>雲<sup>ル</sup>飛<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>夜<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>蚊<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>目<sup>ル</sup>貝<sup>ル</sup>  
李下

ね<sup>ル</sup>と<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>町<sup>ル</sup>も<sup>ル</sup>人<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>涼<sup>ル</sup>は<sup>ル</sup>ん  
峯白

か<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>さ<sup>ル</sup>う<sup>ル</sup>た<sup>ル</sup>君<sup>ル</sup>も<sup>ル</sup>同<sup>ル</sup>舟<sup>ル</sup>寸  
嵐雪

う<sup>ル</sup>ま<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>も<sup>ル</sup>や<sup>ル</sup>ゆ<sup>ル</sup>り<sup>ル</sup>行<sup>ル</sup>な<sup>ル</sup>同<sup>ル</sup>舟<sup>ル</sup>  
李下

日<sup>ル</sup>た<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>く<sup>ル</sup>く<sup>ル</sup>も<sup>ル</sup>姉<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>醒<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>袖<sup>ル</sup>  
氷花

石<sup>ル</sup>高<sup>ル</sup>に<sup>ル</sup>沖<sup>ル</sup>煙<sup>ル</sup>す<sup>ル</sup>人<sup>ル</sup>の<sup>ル</sup>峯<sup>ル</sup>雪<sup>ル</sup>  
嵐雪

蟻<sup>ル</sup>蜂<sup>ル</sup>も<sup>ル</sup>卵<sup>ル</sup>を<sup>ル</sup>行<sup>ル</sup>き<sup>ル</sup>い<sup>ル</sup>戸<sup>ル</sup>袋<sup>ル</sup>  
峯白

婦凡よきらるるもよし腐<sup>クサレ</sup>

冰花

三世のしやひよるる物付

李下

さかしくりて車も通せ腐<sup>クサレ</sup>指

拳白

早<sup>ホシ</sup>霜<sup>シモ</sup>照<sup>テル</sup>の法社の贈<sup>ソラシ</sup>良

嵐雪

花笠ハカゲ乃ち高匠筑<sup>カマ</sup>は蓋

李下

高やまうまの園風を<sup>ヨム</sup>懐

冰花

立吟

瓜<sup>ウラ</sup>瓜<sup>ウラ</sup>や男<sup>オトコ</sup>望<sup>ノゾミ</sup>刻<sup>ウツ</sup>瑞<sup>ミツ</sup>を女

雪<sup>ユキ</sup>れす<sup>ス</sup>光<sup>ヒケ</sup>と<sup>ト</sup>扇<sup>アヒ</sup>も<sup>モ</sup>て<sup>テ</sup>り<sup>リ</sup>

嵐雪

か<sup>カ</sup>く<sup>ク</sup>を<sup>ヲ</sup>吹<sup>フ</sup>く<sup>ク</sup>も<sup>モ</sup>て<sup>テ</sup>み<sup>ミ</sup>て<sup>テ</sup>

同

あ<sup>ア</sup>く<sup>ク</sup>乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>種<sup>タネ</sup>木<sup>キ</sup>を<sup>ヲ</sup>さ<sup>サ</sup>る<sup>ル</sup>

立吟

穠<sup>ノリ</sup>藪<sup>ヤブ</sup>こ<sup>コ</sup>道<sup>ミチ</sup>み<sup>ミ</sup>く<sup>ク</sup>秋<sup>アキ</sup>の<sup>ノ</sup>月<sup>ツキ</sup>

月

年<sup>トシ</sup>貢<sup>ツグ</sup>ば<sup>バ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>こ<sup>コ</sup>除<sup>ノゾキ</sup>也<sup>ヤ</sup>

嵐雪

多々十枝の齋ハスヘもほりて 同  
 頭アタカス数カスやう 落オチ念ネン念ネン多タ 立吟  
 仙セン真マ此コノ来キつツきキくク 恒ツネニ此コノ 嵐ハルカ  
 近ツギきキやヤらラ 恐コホシハハ 禪ゼン乃ナラバ 魂タマ  
 盜ツグやヤわワてテ 嵐ハルカをヲつツくク 逆サカ刺サシすス  
 使シ合カやヤもモすス 落オチ念ネン念ネン多タ 立吟  
 多タくクしシ 足タラシくク 子コ持チくク 母ハハをヲさサすス  
 多タくク 採ツク 飯イハ 御ゴ油ユのノ 立吟  
 立吟

さサめメくク 此コノ 嵐ハルカ 立吟  
 落オチ拾シロりリすス 立吟  
 花ハナよヨつツ 貝カイ摺スリ 立吟  
 春ハル雨アメ 白シロきキ 酒サケのノ 春ハル 立吟  
 次ツギ品ヒンをヲ 頭アタのノ 嵐ハルカをヲ 立吟  
 つツくク 此コノ 嵐ハルカ 立吟  
 海ウミ 立吟  
 立吟

小新登るに 勢の秋をあれ二三尺 立吟  
 椽のうしろれ 竹のまを打 虎書  
 垣車月おの ようきに 後し 立吟  
 市れをよつく 忍れ昆布賣 虎書  
 急所も 石者ぶく 杖鼓うら 立吟  
 翠平屋を 瓦月の心志わさや 虎書  
 虫蛇の 誰とよ 夢をさかめたり 立吟  
 鳴りれ 精進や 忘れさるるに 虎書

ちりあひも 竹のき 傾城の 勢 立吟  
 杉義友と つけいさく 杖鼓 曰  
 狐多よ 忍れ 杖鼓を 虎書  
 七あく 乃戸 見ゆより 曰  
 不科乃 子あのも 水志 虎書  
 梅山 以乃 せん 虎書

百花

名よすわく坂まよふねを倭神  
 あつたればけりし塵をよ新  
 切流ハクようせむからと念え  
 園ヲリのつら目と聴フケラかす  
 嵐ヤリ機イタチ糸チヤ削ル萩の月  
 田イホ房イホさしとこれの連カラ糸サホ  
 菊花 菊花 菊花 菊花  
 菊花 菊花 菊花 菊花

機キ好コくク態タイ非ヒ凡ボウお客シヤク入イりリせ  
 昔カク一イツのノ後ゴもモ明メイらラのノ新シン糸セウ  
 玄ゲン此コノおノまマさサんン松マツをヲまマさサ  
 風キヤウ好コしシ好コ中チュウのノ後ゴりリ香カウ  
 病ヤミぬヌるルてテまマをヲ流リウしシ常ジョウ世セ  
 さらサらラやヤあアけケ乃ノ衣イすスあアすスあア  
 おオ遊ユ人ニンらラのノ掛ケあアおオ  
 客キヤクよヨ三サン色シキはハ乃ノあアひヒやヤさサハ  
 菊花 菊花 菊花 菊花  
 菊花 菊花 菊花 菊花



新<sup>アラ</sup>肌<sup>ハダ</sup>を<sup>ニ</sup>入<sup>ル</sup>和<sup>ワ</sup>け<sup>テ</sup>花<sup>ハナ</sup>の<sup>ハ</sup>肌<sup>ハダ</sup> 花<sup>ハナ</sup>  
 柳<sup>ヤナギ</sup>乃<sup>ハ</sup>花<sup>ハナ</sup>を<sup>ニ</sup>上<sup>ル</sup> 花<sup>ハナ</sup>  
 桂<sup>ケイ</sup>月<sup>ツキ</sup>色<sup>イロ</sup>う<sup>ラ</sup>う<sup>ラ</sup>や<sup>ウ</sup>花<sup>ハナ</sup>春<sup>ハル</sup>の<sup>ハ</sup>肌<sup>ハダ</sup> 花<sup>ハナ</sup>  
 舟<sup>フネ</sup>煮<sup>ニ</sup>下<sup>ル</sup>カ<sup>キ</sup>子<sup>コ</sup>わ<sup>ワ</sup>り<sup>リ</sup> 花<sup>ハナ</sup>  
 珍<sup>メ</sup>ら<sup>ラ</sup>よ<sup>ヨ</sup>胡<sup>コ</sup>座<sup>ザ</sup>か<sup>カ</sup>く<sup>ク</sup>佛<sup>ブツ</sup>や<sup>ヤ</sup> 花<sup>ハナ</sup>  
 狐<sup>キツネ</sup>つ<sup>ツ</sup>れ<sup>レ</sup>の<sup>ノ</sup>花<sup>ハナ</sup>を<sup>ニ</sup>持<sup>チ</sup>に<sup>ニ</sup> 花<sup>ハナ</sup>  
 ほ<sup>ホ</sup>れ<sup>レ</sup>も<sup>モ</sup>や<sup>ヤ</sup>白<sup>シロ</sup>粉<sup>コ</sup>の<sup>ノ</sup>花<sup>ハナ</sup>紅<sup>ベニ</sup>の<sup>ノ</sup>花<sup>ハナ</sup> 花<sup>ハナ</sup>  
 う<sup>ウ</sup>ま<sup>マ</sup>の<sup>ノ</sup>毛<sup>モウ</sup>落<sup>ラク</sup>と<sup>ト</sup>当<sup>トウ</sup>座<sup>ザ</sup>の<sup>ノ</sup>妻<sup>メ</sup> 花<sup>ハナ</sup>

月<sup>ツキ</sup>い<sup>イ</sup>ん<sup>ン</sup>是<sup>コノ</sup>に<sup>ニ</sup>花<sup>ハナ</sup>も<sup>モ</sup>ら<sup>ラ</sup>な<sup>ニ</sup>あ<sup>ハ</sup> 花<sup>ハナ</sup>  
 稻<sup>イネ</sup>答<sup>コタ</sup>も<sup>モ</sup>ハ<sup>ハ</sup> 花<sup>ハナ</sup>  
 鬢<sup>カウコ</sup>も<sup>モ</sup>う<sup>ウ</sup>う<sup>ウ</sup>子<sup>コ</sup>の<sup>ノ</sup>花<sup>ハナ</sup>の<sup>ノ</sup>衣<sup>イ</sup> 花<sup>ハナ</sup>  
 冬<sup>フユ</sup>う<sup>ウ</sup>や<sup>ヤ</sup>花<sup>ハナ</sup>わ<sup>ワ</sup>ら<sup>ラ</sup> 花<sup>ハナ</sup>  
 さ<sup>サ</sup>く<sup>ク</sup>花<sup>ハナ</sup>よ<sup>ヨ</sup>花<sup>ハナ</sup>の<sup>ノ</sup>妍<sup>ケン</sup> 花<sup>ハナ</sup>  
 乞<sup>イヒ</sup>も<sup>モ</sup>花<sup>ハナ</sup>を<sup>ニ</sup>お<sup>オ</sup>花<sup>ハナ</sup>様<sup>サマ</sup> 花<sup>ハナ</sup>  
 月<sup>ツキ</sup>形<sup>カタ</sup>の<sup>ノ</sup>花<sup>ハナ</sup>の<sup>ノ</sup>衣<sup>イ</sup> 花<sup>ハナ</sup>  
 鳥<sup>トリ</sup>叫<sup>ケイ</sup>も<sup>モ</sup>花<sup>ハナ</sup>の<sup>ノ</sup>肝<sup>カン</sup> 花<sup>ハナ</sup>

芥の香に雪丸ウツキの汗後ウツキ  
 機布ハタらひし銀の海ウミ西ニシ 嵐雪  
 水ミヅのよ妹イモのれ裏ウラあり 石花  
 柳ヤナギの糸イトとけり湯ユ肌カミより 益凸  
 花ハナの種タネよりや種タネの宿ヤク 菊峯  
 菊キクの種タネより雪丸ウツキをささる 嵐雪

其角

雪丸ウツキや種タネより銀ギンより  
 萬マンも後アトをわきし山ヤマの雪  
 東ヒガシより月ツキささる高タカを  
 中ナカへ通トるをたしる雪丸ウツキ飯イ  
 雪ユキの肌カミの痒イヒシも冷ヒヤ風カゼり  
 城シロの上ウヘより花ハナより板イタ  
 嵐雪 百里 其角 百里 嵐雪

田福舟 四乃 少 艦 由 詠 菟 十角

山田の 舟 乃 少 舟 之 乃 十角

津 遠 乃 増 舟 十角

下 学 乃 友 舟 十角

人 乃 舟 十角

乃 舟 十角

乃 舟 十角

乃 舟 十角

女 乃 舟 十角

腸 乃 舟 十角

乃 舟 十角

乃 舟 十角

乃 舟 十角

乃 舟 十角

乃 舟 十角

乃 舟 十角

十角

十角

十角

十角

十角

十角

十角

十角

十角

十角

十角

十角

十角

十角

十角

十角

大津や三つ浦に吾れありきれ

万石

塔とて呼く一鉢の音

万石

うらしいやうきやうきと拾ふ破抄

十角

沖の子日は海行をり

万石

玉子り難波にありしは都

万石

塚のらうも也す輪を我

十角

を信のりあつたる春の

万石

掃買の店に袖ひれり

万石

船に酔鞍と懸る

十角

界の侍とてはまじり

万石

近宮のあそび洞しる外

万石

芳野丸曆月日わりのき

十角

餅花とやと煤の春

万石

おき帯にうつ餅子やくや

万石

秀和

炭のしらけたるに妹の涙分  
 多く女に雪れ積る門立  
 臘月乃梅花の鶯す中へ  
 吾乃乃砂塵よけし  
 志しと婿嫁や酔をさる  
 と程も花の自京まで

嵐雪  
 舟竹  
 秀和  
 嵐雪  
 舟竹

枯後がらあまの笠に飛ぶ  
 秋志しとそ膝よ泣めら  
 人乃活よとくかろ一長妻  
 同病をさすれおの醫負杯  
 灌佛をこもに提てお印の  
 夢さるもとのうらみお起  
 歌ふ心空しくもよろねて  
 髪のお路を長き乃純

秀和  
 舟竹  
 嵐雪  
 舟竹  
 秀和  
 舟竹  
 嵐雪  
 舟竹

三々四我流カキのわけて治りカキ 舟行  
 暮ヨシ宿ヨ麩メニすゆら月夜カキの 秀和  
 花カキの交カキ醒カキり并カキ餅カキよ書カキ止カキめ 舟行  
 二 きのう唐カラ人カキ天セニ穿カキ乃カキ晴カキ 舟行  
 衣カキ交カキ差カキ名カキ肉ニク陣チニ凡カキも立カキつて杯 秀和  
 賭カケ双カキ六カキは宿カキのあおツ 舟行  
 腰カシ交カキをカキ穿カキにカキ借カキスカキ後カキ向カキ 舟行  
 ころころのいふ人カキのいふこと 秀和

形カキ尾カキ乃カキ勢カキのカキとカキ人カキやカキ水カキがカキ 舟行  
 軼ヒヤカキツカキキカキさカキしカキしカキさカキらカキさカキらカキれ 舟行  
 壹コ冬カキ冬カキ也カキもカキらカキいカキ流カキ連カキもカキら 秀和  
 踏カキぬカキ男カキ先カキんカキ乃カキ少カキ男カキ 舟行  
 ころころのいふ人カキのいふこと 舟行  
 わずかさすおのちのいふこと 秀和  
 節カキ季カキのいふ人のいふこと 舟行  
 腰カシ交カキをカキ穿カキにカキ借カキスカキ後カキ向カキ 舟行

下

銀<sup>シヤチ</sup>の<sup>カ</sup>を<sup>ハ</sup>日<sup>ニ</sup>を<sup>カ</sup>佩<sup>フ</sup>

秀和

ち<sup>ニ</sup>う<sup>ル</sup>を<sup>カ</sup>人<sup>ノ</sup>母<sup>ノ</sup>中<sup>ニ</sup>

舟竹

猫<sup>ノ</sup>好<sup>ム</sup>乃<sup>チ</sup>こ<sup>ノ</sup>終<sup>ニ</sup>終<sup>ル</sup>終<sup>ル</sup>終<sup>ル</sup>終<sup>ル</sup>

嵐若

水<sup>ノ</sup>汲<sup>リ</sup>所<sup>ニ</sup>お<sup>キ</sup>毎<sup>日</sup>年<sup>々</sup>し<sup>テ</sup>け

秀和

神<sup>ノ</sup>子<sup>ノ</sup>月<sup>ノ</sup>十<sup>ノ</sup>ら<sup>を</sup>を<sup>カ</sup>死<sup>シ</sup>聖<sup>ニ</sup>

嵐若

空<sup>ノ</sup>吹<sup>ク</sup>の<sup>カ</sup>乃<sup>チ</sup>法<sup>ノ</sup>持<sup>ル</sup>

舟竹



奥陽堂  
月下

輝<sup>ク</sup>も<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>何<sup>レ</sup>も<sup>ハ</sup>さ<sup>し</sup>あ<sup>の</sup>の<sup>心</sup>

呼<sup>ビ</sup>き<sup>の</sup>門<sup>ノ</sup>の子<sup>ニ</sup>愛<sup>シ</sup>子<sup>ノ</sup>笑<sup>ム</sup><sup>ウロ</sup><sup>カハラ</sup>

冬<sup>ノ</sup>麓<sup>ル</sup>山<sup>ノ</sup>廟<sup>ノ</sup>人<sup>ヲ</sup>都<sup>ヲ</sup>去<sup>リ</sup><sup>ユカハマヤシク</sup>

若<sup>シ</sup>羊<sup>ノ</sup>々<sup>々</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>シ</sup>夕<sup>ノ</sup>乃<sup>チ</sup>月<sup>ノ</sup>

賞<sup>シ</sup>焼<sup>ク</sup>の<sup>カ</sup>鱈<sup>ノ</sup>の<sup>カ</sup>陽<sup>ノ</sup>亦<sup>チ</sup>松<sup>ノ</sup>守<sup>ル</sup>

松<sup>ノ</sup>の<sup>カ</sup>崎<sup>ノ</sup>々<sup>々</sup>も<sup>も</sup>々<sup>々</sup>々<sup>々</sup> 石<sup>ノ</sup>也<sup>ニ</sup>

F

ハ十四

西練の結構ありてと草枕

月下

涼髪割ツレカミの白い暑ツツくれ

露雪

帷子ツツは着筋ツツすわく物あり

桐雨

麦粉ツツくすくすの髪ツツはれ

月下

おしりツツふ順ツツれツツくまツツの上

露雪

曇りツツきツツぬ御宿ツツの湯ツツ煙

桐雨

編ツツ書ツツみツツ今ツツいツツあツツくツツ絆ツツじ

月

さくらツツ男ツツうツツつツツ乃ツツあツツつツツ

露雪

花ツツよツツみツツいツツいツツいツツ心ツツ田ツツ井ツツ點ツツのツツ魚

桐雨

ゆツツよツツあツツんツツあツツのツツかツツきツツよツツうツツれツツえツツん

月下

花ツツのツツ床ツツ曉ツツあツツいツツ金ツツ鉢ツツあツツあ

露雪

ふツツかツツりツツあツツりツツれツツ帷ツツ子ツツはツツほツツをツツく

桐雨

雪ツツもツツ待ツツちツツ吟ツツふツツをツツあツツ流ツツなツツれ

月下

佛ツツ頂ツツ戴ツツふツツあツツきツツめツツのツツ空ツツ

露雪

雪ツツ雲ツツのツツ戸ツツ々ツツよツツぢツツりツツ鳥ツツさツツ

桐雨

ふツツかツツりツツあツツりツツれツツ帷ツツ子ツツはツツほツツをツツく

月下



白川のうらうらともなうきいほ所 光る

馬谷よりわの都 なるらん 相面

杉枝の思ひも こころ 相面

小うそ て 五月甲申房 光る

~~こころ~~ は ~~な~~ に ~~な~~ る は な る 相面

秘めひく ふ 死後の取 月下

十六世のやま よ 寺れ 光る

竹の子 と 一を 結 ぬ う 吹 相面

地下此田河や あ 方 に ら ん 月下

ユアミ 浴 ゆ り と か ら ゆ る は な る は な る 光る

ヒツシ 葱 よ 首 つ れ ら く る 地 か り ん 相面

夢の錦 ハ な ら の 光 る ら わ 月下

まの お を 嫁 氏 の な な め き を せ 光る

恨 ら れ し き な 文 と ら の 衣 相面

皇都書林 京堀川通錦小路上町  
西村市郎右衛門藏版

蕉門俳書目錄

みどり栗 <small>其角輯</small>	二冊
續みどり栗 <small>同輯</small>	二冊
花津み <small>同輯</small>	二冊
續み <small>湖十輯</small>	二冊
抄乃ぬき <small>嵐吉輯</small>	二冊
かまの合 <small>其角 系堂仙化輯</small>	一冊
皮籠摺 <small>涼菟輯</small>	二冊

載文堂藏板

新二百韻 <small>其角輯</small>	一冊
新三百韻 <small>日輯</small>	一冊
丙寅紀行 <small>風暴集</small>	一冊
新山家 <small>其角輯</small>	一冊
妻乃日越人	一冊
抄 <small>宗瑞 咫尺</small>	一冊
長樂古子句 <small>夫石</small>	一冊

千載堂百歌仙集 五冊

誹諧書籍目錄 三冊

小傘 物心はす  
御堂集 一冊

ととたし道 二冊

七部集小本 まの目  
猪養 一冊

ととたし まの目  
猪養 二冊

貞徳植 貞徳  
こが栗注 一冊

祇園拾遺 二冊

山詠の露 一冊

三月物 京宗近會 一冊

下卯集 一冊

關相撲 三冊

毛吹くは 五冊

同進加 近刻三冊

京都孫川綿上落上町  
西村市郎左衛門梓



